

20220624写真測量学会配布

「SDGs未来都市横浜の挑戦とこれから・・・ ヨコハマSDGsデザインセンターの役割」

@日本写真測量学会関西支部・特別講演会

ヨコハマSDGsデザインセンターセンター長
神戸大学産官学連携本部アドバイザーフェロー
(株) エックス都市研究所理事
(元横浜市地球温暖化対策事業本部長等)
信時正人





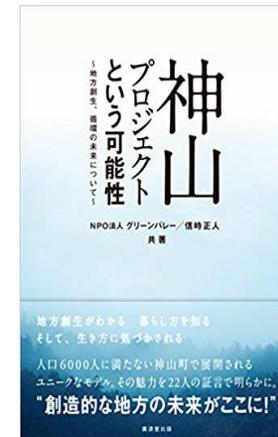
信時 正人

のぶとき まさと

ヨコハマSDGsデザインセンターセンター長、(株)エックス都市研究所理事
 横浜国立大学イノベーション学府客員教授、東京大学まちづくり大学院非常講師
 (一社)UDCイニシアチブ理事、(一社)スマートシティインスティテュートエグゼ
 クティブアドバイザー、ジャパンプルーエコノミー技術研究組合理事、和歌山市特別
 顧問、他

和歌山県和歌山市出身、東京大学都市工学科卒。三菱商事株式会社(情報産業、開発建設、金融)を経て、(財)2005年日本国際博覧会協会(政府出展事業(日本館企画運営及び政府主催催事)企画・催事室長)、を務める。

その後、東京大学大学院特任教授(柏の葉アーバンデザインセンターの立ち上げ等)、横浜市都市経営局都市経営戦略当理事、温暖化対策統括本部長等歴任(横浜スマートシティプロジェクト、環境未来都市事業等推進)。他に、(一社)UDCイニシアチブ理事、神戸大学産官学連携本部客員教授、イベント学会理事、宝塚医療大学特別客員教授、和歌山市特別顧問、等



スマートシティ、SDGsや「まちの活性化」の目的とは。。。Well-Being!?

(横浜市で考えたこと)

・環境未来都市→

「誰もが暮らしたくなる街」「誰もが活力ある街」

・コペンハーゲン市長→

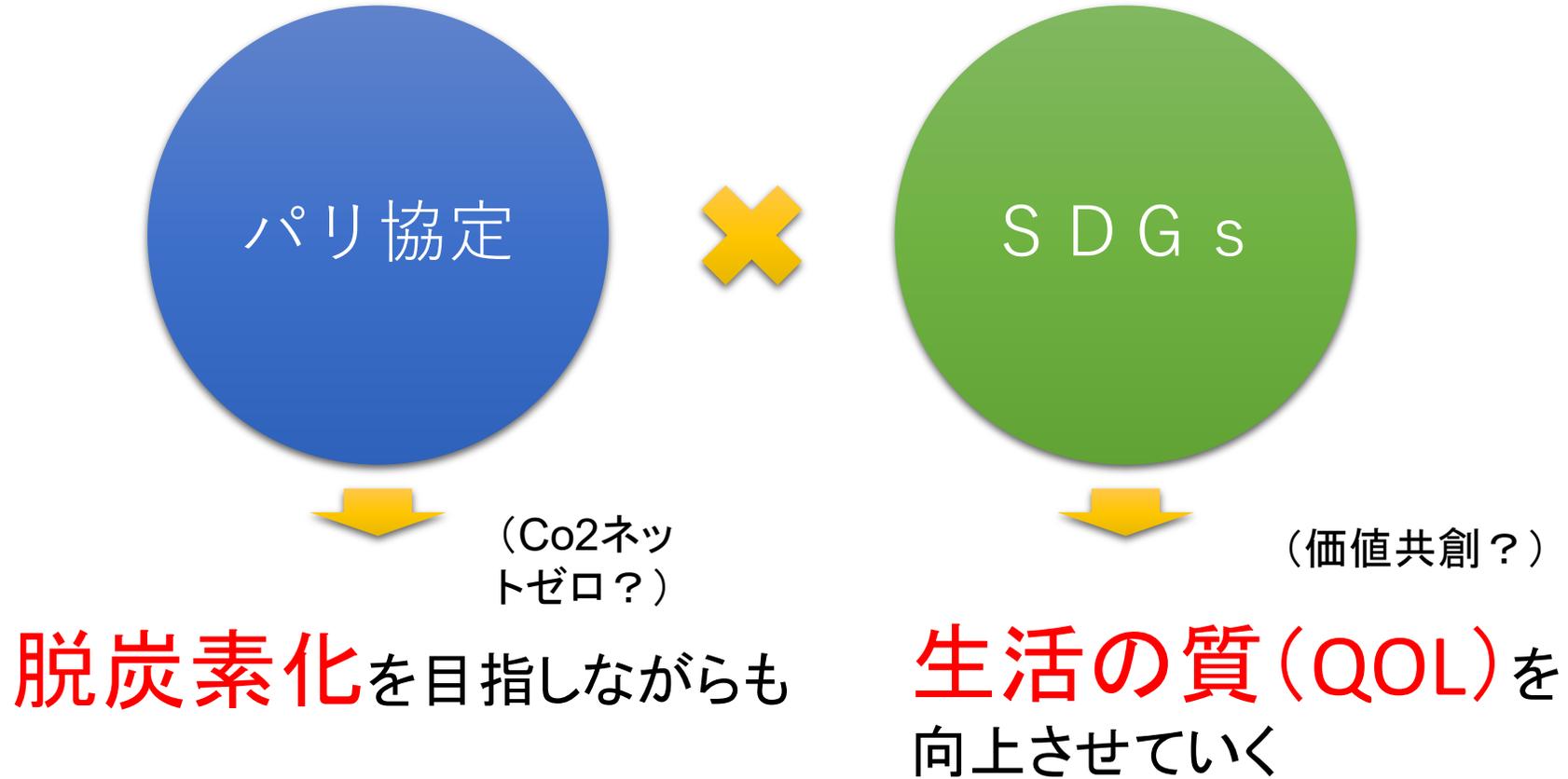
「温暖化対策をすることが目的ではない、皆が活性化し市民に選ばれる街となることだ」

・島根県海士町山内元町長→

「町長は中小企業の社長で町役場は住民のための総合サービス商社だ」

⇒**そのためには。。。。**

これまでの延長線上にない感覚と実践が必要(20世紀型⇒21世紀型、、、20世紀の成功は21世紀の成功にはプラスか??)



これからの時代は、パリ協定とSDGsを両立させていくという難しい舵取りが要求される時代になる！

我々の世界を変革する： 持続可能な開発のための2030アジェンダの構造

【前文】「人間、地球及び繁栄のための行動計画」という書き出し

【宣言】世界が直面する危機や機会、アジェンダの特徴を説明

【持続可能な開発目標（SDGsとターゲット）】

17のゴールと169のターゲット一覧

【実施手段とグローバル・パートナーシップ】

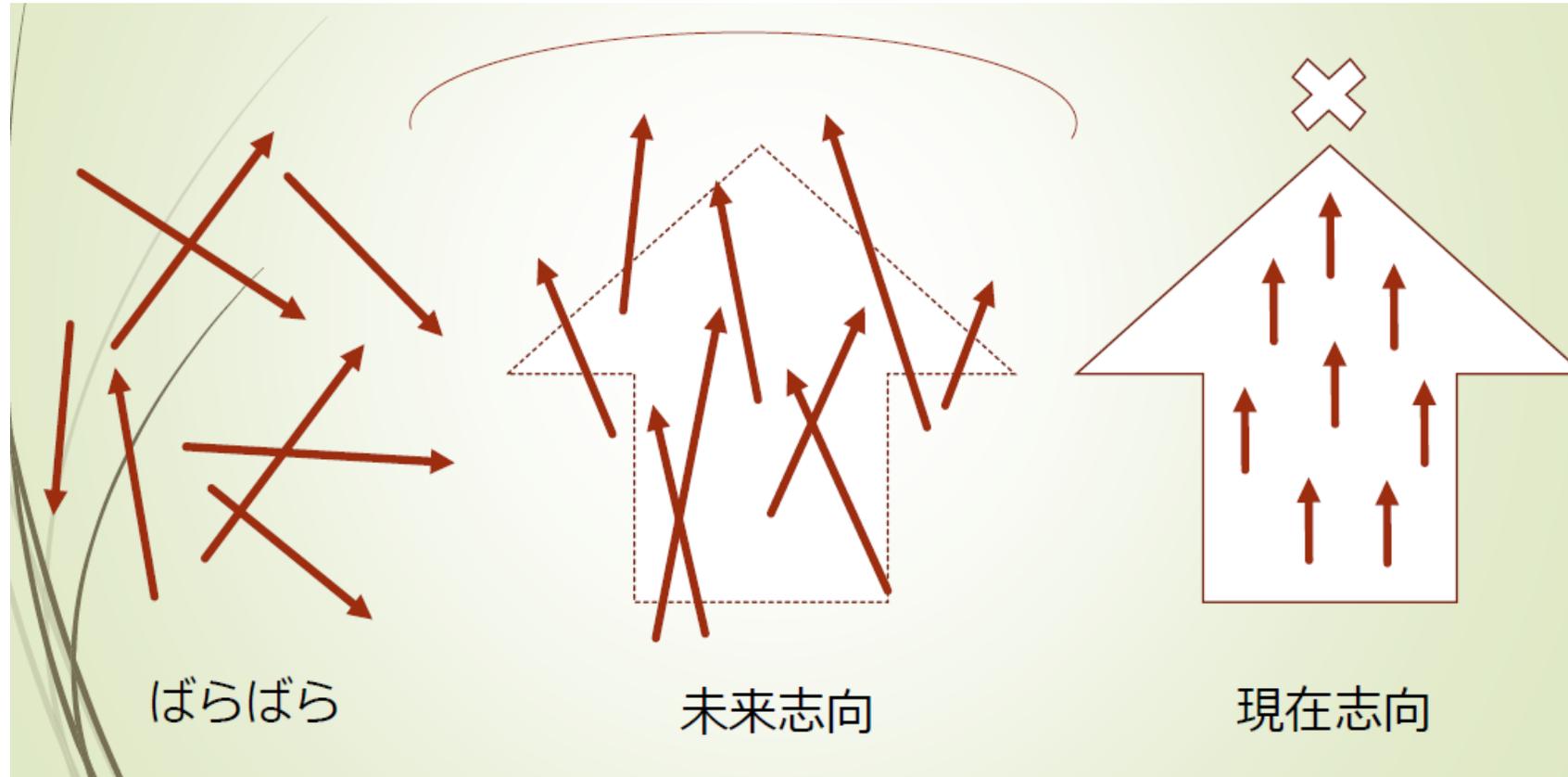
【フォローアップとレビュー】

⇒SDGsは「大胆な変革」が必要と訴えている

アジェンダの冒頭に“transforming our world”(我々の世界を変革する)
既存の延長線上には未来はない、大胆に変えていかねばならない、とい
う宣言である。更に、No one will be left alone…(だれ一人取り残さない)
の、二つが原則と理解。

幼虫⇒さなぎ⇒成虫、のような大変化（変態）を。今はサナギか？！！

自律・分散・協調(公・民(市民)・学)



それぞれの特徴を活かし合い、その上で大きな方向性の一致の元進めていくこと
オーケストラの如く……楽譜=SDGs

SDGs実施指針

- 我が国政府は2016年5月に「SDGs推進本部」を設置し、同年12月に「SDGs実施指針」を決定
 - ✓ ビジョン：「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す。」
 - ✓ 実施原則：①普遍性、②包括性、③参画型、④統合性、⑤透明性と説明責任

【8つの優先課題と具体的施策】

①あらゆる人々の活躍の推進

■一億総活躍社会の実現 ■女性活躍の推進 ■子供の貧困対策 ■障害者の自立と社会参加支援 ■教育の充実

③成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション

■有望市場の創出 ■農山漁村の振興 ■生産性向上 ■科学技術イノベーション ■持続可能な都市

⑤省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会

■省・再生可能エネルギーの導入・国際展開の推進 ■気候変動対策 ■循環型社会の構築

⑦平和と安全・安心社会の実現

■組織犯罪・人身取引・児童虐待等の対策推進 ■平和構築・復興支援 ■法の支配の促進

②健康・長寿の達成

■薬剤耐性対策 ■途上国の感染症対策や保健システム強化、公衆衛生危機への対応 ■アジアの高齢化への対応

④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備

■国土強靱化の推進・防災 ■水資源開発・水循環の取組 ■質の高いインフラ投資の推進

⑥生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

■環境汚染への対応 ■生物多様性の保全 ■持続可能な森林・海洋・陸上資源

⑧SDGs実施推進の体制と手段

■マルチステークホルダーパートナーシップ ■国際協力におけるSDGsの主流化 ■途上国のSDGs実施体制支援

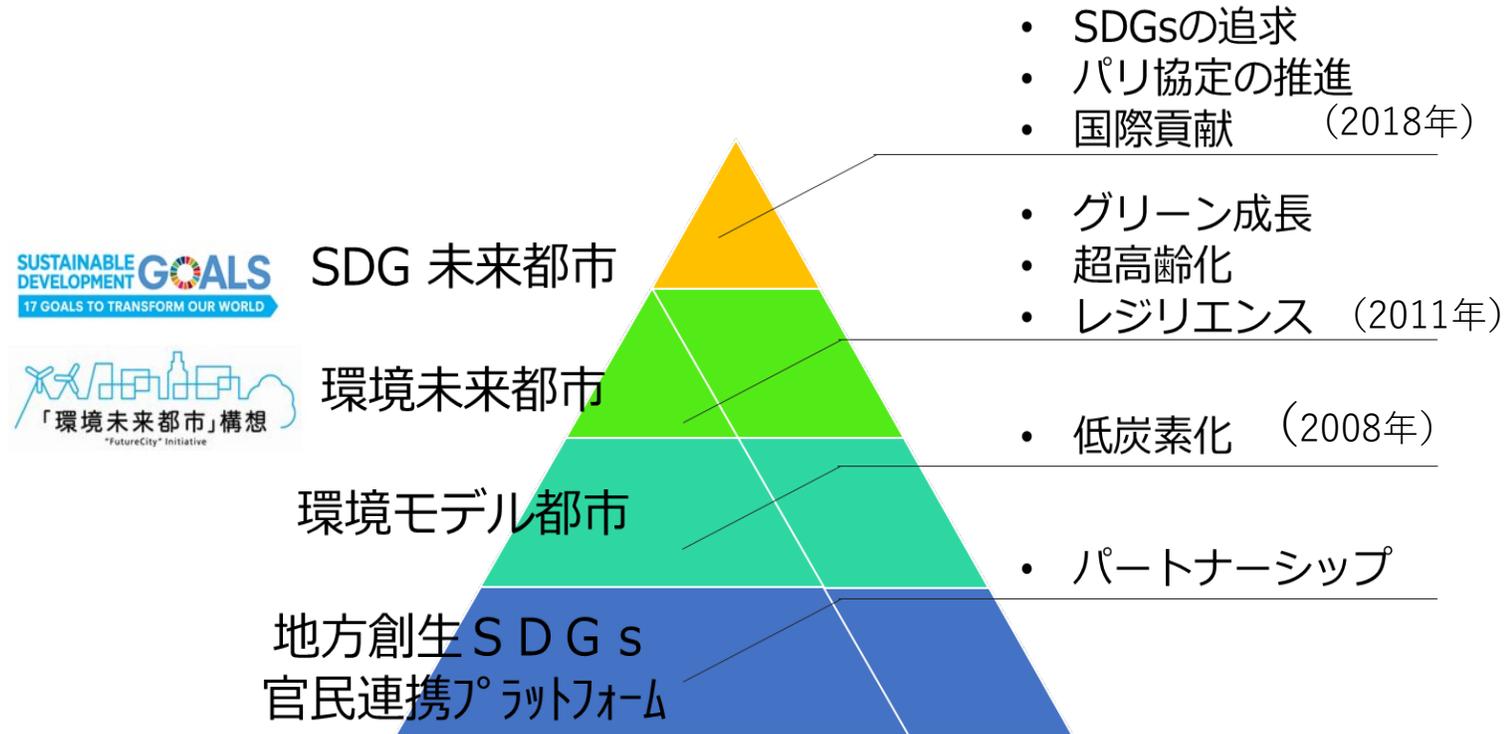
「カタログ」
ではなく
「小説」を

環境モデル都市・環境未来都市からSDGs未来都市へ

横浜市をモデルとして事例説明
<SDGs未来都市への準備運動>

4つの指定を取ったのは、
横浜市と北九州市の
二市のみ

- 国は地方公共団体によるSDGsの達成に向けた取り組みを公募し、2018年6月、全国29の都市・地域が選定された。（2010年次世代エネルギー・社会システム実証地域の選定（METI））



<環境モデル都市>



ストップ温暖化!

2025年度までに温室効果ガス排出量を30%削減!

よこはま
ストップ温暖化!

横浜市脱温暖化行動方針

CO-DO30

Carbon Off Do 30
二酸化炭素等の削減 行動する 30%以上の削減

平成20年1月策定

7つの分野での行動方針

7つの行動(コード[CO-DO])

建物CO-DO

エネルギー性能
のよい建物による
都市づくり

ビジネスCO-DO

脱温暖化ビジネス
スタイルから
社会を変える

交通CO-DO

徒歩・自転車・公共交通
によって移動できる魅力的な
まちづくりと自動車の
脱温暖化の促進

生活CO-DO

一人ひとりの
温暖化行動から
社会を変える

エネルギーCO-DO

再生可能
エネルギーを
10倍に拡大

市役所CO-DO

脱温暖化の
市役所づくり

都市と緑CO-DO

ヒートアイランド対策
などを通じたみどり
あふれるまちづくり



< 建制順 >

市長の言葉…

「中と外」、「中と中」をつなげてくださ
い…

市長

副市長

温暖化対策統括本部（元地球温暖化対策事業本部） → 環境モデル都市、
次世代エネルギー社会システム実証事業、環境未来都市、SDG s 未来都市

政策局、財政局、総務局

・ 建築局、環境創造局、市民局、道路局、港湾局、都市整備局、

……

地球温暖化対策は全庁的な取り組みでないと効果は出ない。また、その目的は住みやすく、市民に選ばれる街となることである



環境モデル都市提案概要(データはH20応募時)

- ・概要:人口約365万人、総面積437km²
- ・リサイクル対策における「市民力」の実績(ごみ排出量の30%削減を目標年限よりも早く2年で達成)。
- ・温室効果ガスを2025年に30%/人以上、2050年に60%/人以上削減(2004年比)。
- ・知の共有、選択肢の拡大、市民力発揮で大都市型ゼロカーボン生活の実現を目指す。

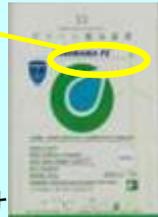
ゼロカーボン生活

○住宅性能の評価格付け・省エネ証書の発行
ゼロカーボン住宅・200年住宅の普及のため、一定水準以上の高性能住宅について経済的インセンティブの付与(固定資産税の軽減等)。



○「エコもてなし」
ファストフード店、宿泊施設等の使い捨て容器等ゼロを目指す。市主催及び市施設でのコンサート、スポーツイベントでのカーボンオフセット義務づけ

YOKOHAMA FC



○大型開発の省エネ化
・都市計画提案制度(一定面積以上の土地利用について土地所有者やNPO等が利用計画を提案できる、都市計画法上の制度)を活用し、大型開発について、再生可能エネルギー10%導入、CASBEE横浜の高ランク評価獲得等を促進。
・将来的には、再生可能熱エネルギーの利用を義務づけ。

Jリーグのカーボンオフセット
マッチで購入したグリーン証書

消費電力をグリーン証書
購入でオフセットした会議

○横浜環境ポイント制度
・2009年に開催される、横浜開港150周年記念イベントの一環として、各家庭での省エネ促進、小学生向けの環境学習、地域の商店街活性化、市民主体の運営といった視点で協働実施。
・結果を検証後、2010年以降の省エネ家電購入等排出削減に資する行動を促す仕組みを構築し取組実施。

「市民力」を活かした再生可能エネルギー利用

再生可能エネルギーを現状の10倍以上(エネルギー消費量に占めるシェア0.7%(2004)→12%(2025))へと「Jカーブ」で拡大。

○供給面:「横浜グリーンパワー」

市民出資等によるファンド、グリーン電力証書販売等を資金源とし、再生可能エネルギーの供給・拡大。

電力の環境価値を固定価格で買い取り。**ハマウイング**
(市民風力発電)



○需要面

- ・下水処理場等を活用して再生可能エネルギー技術・知見を集積し、横浜臨海部を再生可能エネルギー活用の最先端エリアへ。
- ・市のすべての施設に再生可能エネルギー設備や高効率設備の導入を目指す。



- 下水汚泥の処理・活用 (南部汚泥資源化センター)
- 家庭系生ゴミ資源化
- 事業所間での電力の相互有効利用
- 金沢動物園・自然公園での再生可能エネルギー利用
- 金沢区役所でのヒートアイランド対策集中導入モデル事業実施

交通対策

○低燃費車の普及促進

電気自動車・プラグインハイブリッド車の導入促進(買換え時低利融資等)。充電インフラの固定資産税の軽減。

○魅力ある移動手段のシェア

デザイン性に優れた電気自動車やマイクロモビリティ(電動の立乗二輪車など)を共同利用。



低燃費車のイメージ

農山村との連携

○脱温暖化連合「大都市・農山村連携モデル」の構築

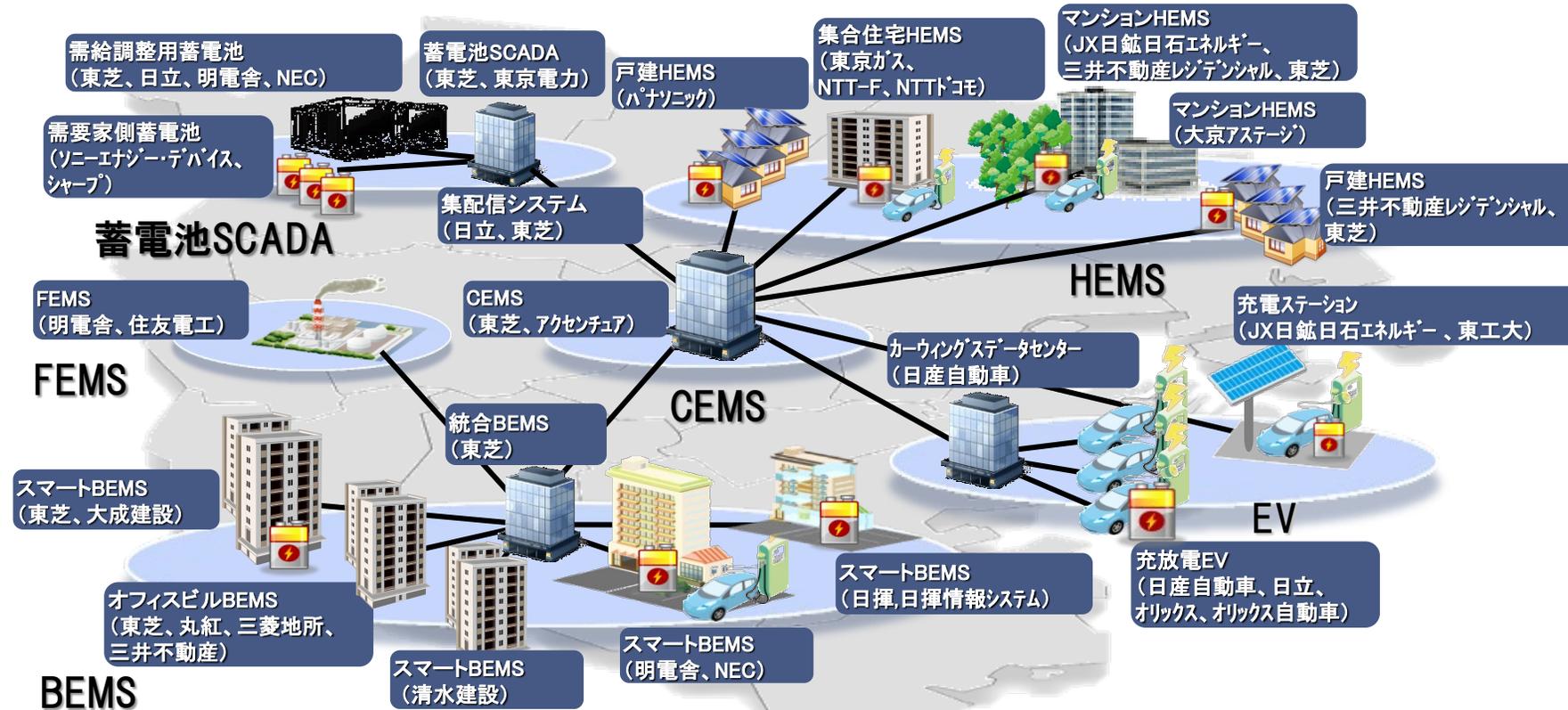
山梨県道志村等と連携し、森林管理を支援した企業がカーボンオフセットできる仕組み構築。産官学が連携し間伐材等バイオマス資源活用ビジネス促進。

次世代エネルギー・
社会システム実証事業

横浜スマートシティプロジェクトの全体像

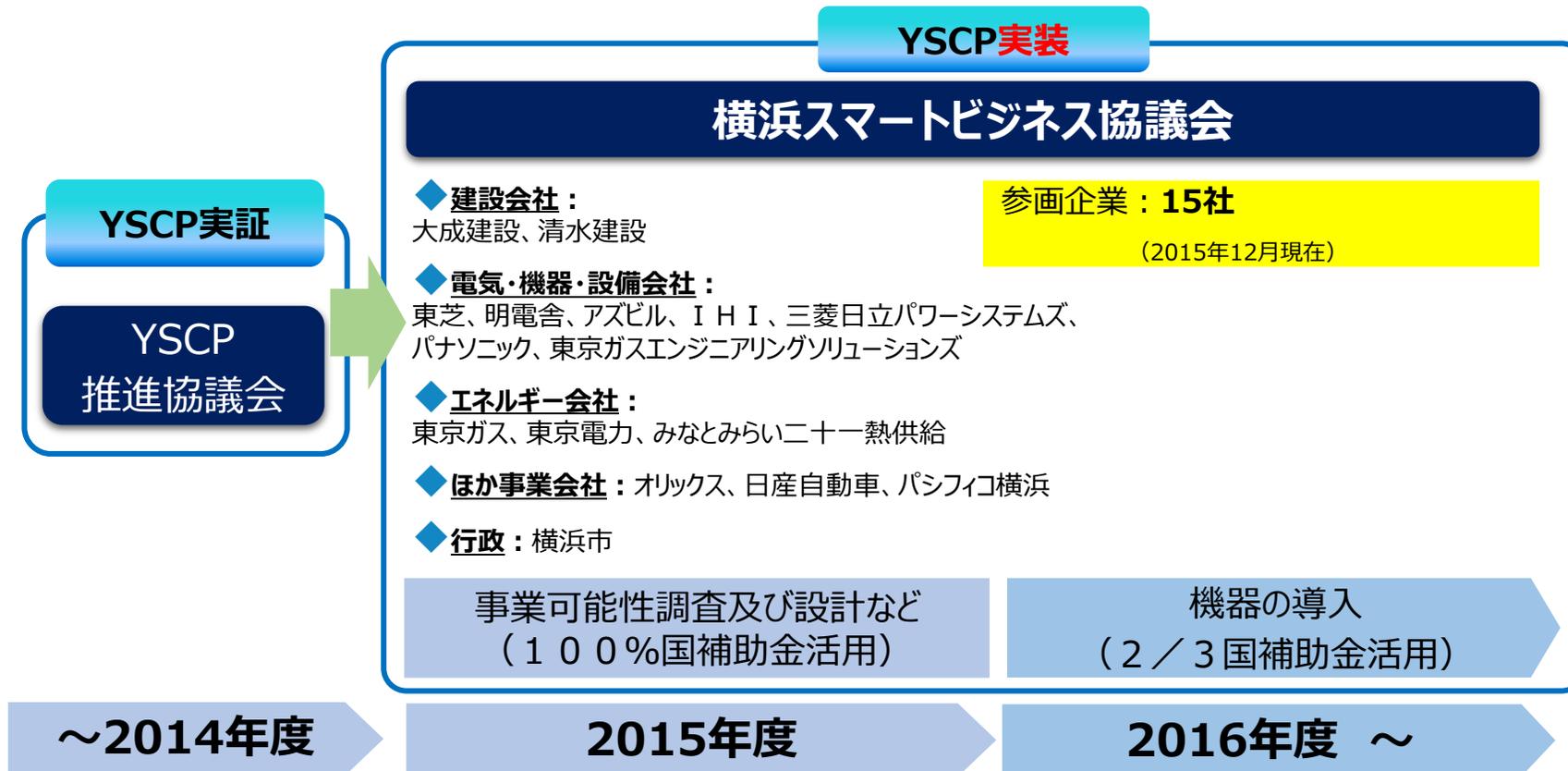
大規模既成市街地を舞台にした、 地域エネルギーマネジメントの開発・導入実証事業

■導入実績(2013年度まで) / 目標 (2010~2014年度)
HEMS (ホームエネルギーマネジメントシステム) (4,200件/4,000件)
太陽光パネル (36MW/27MW)、電気自動車 (2,300台/2,000台)



実証から実装に向けた公民連携の取組

横浜スマートシティプロジェクト（YSCP）実証事業で培ったノウハウを生かし、防災性、環境性、経済性に優れたエネルギー循環都市を目指すため、新たな公民連携組織を2015年4月に設立。実証から実装へ向けた取組を実施。



< 環境未来都市 >

横浜の目指す将来像（環境未来都市）



目指すべき将来ビジョンの実現に向けた課題・目標

環境	低炭素・ 省エネルギー	CO ₂ 排出を大きく削減する 「スマートシティ」の市域全体での 実現
	水・自然環 境	上下水道技術の海外展開支援/ 生活の中で自然に親しむ豊かな暮ら し
超高齢化対応		住み慣れた身近な地域における 全世代の「つながり」の実感
地域 活性化	クリエイ ティビティ	文化芸術による賑わいの創出/ MICE都市の実現
	チャレンジ	市内企業の技術・経営革新による 成長産業の強化

SDG s 未来都市・横浜

SDGs未来都市



2015年9月の国連サミットで「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択



国連の動きに対応し、日本政府もSDGsを重要政策課題と位置づけ、地方創生政策の枠組みのもとで、自治体のSDGs導入を促進している



内閣府では、SDGsの達成に向けた優れた取組を提案する自治体である「SDGs未来都市」に横浜市は選定された。



SDGs実施指針

- 我が国政府は2016年5月に「SDGs推進本部」を設置し、同年12月に「SDGs実施指針」を決定
 - ✓ ビジョン：「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す。」
 - ✓ 実施原則：①普遍性、②包括性、③参画型、④統合性、⑤透明性と説明責任

【8つの優先課題と具体的施策】

①あらゆる人々の活躍の推進

■一億総活躍社会の実現 ■女性活躍の推進 ■子供の貧困対策 ■障害者の自立と社会参加支援 ■教育の充実

③成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション

■有望市場の創出 ■農山漁村の振興 ■生産性向上 ■科学技術イノベーション ■持続可能な都市

⑤省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会

■省・再生可能エネルギーの導入・国際展開の推進 ■気候変動対策 ■循環型社会の構築

⑦平和と安全・安心社会の実現

■組織犯罪・人身取引・児童虐待等の対策推進 ■平和構築・復興支援 ■法の支配の促進

②健康・長寿の達成

■薬剤耐性対策 ■途上国の感染症対策や保健システム強化、公衆衛生危機への対応 ■アジアの高齢化への対応

④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備

■国土強靱化の推進・防災 ■水資源開発・水循環の取組 ■質の高いインフラ投資の推進

⑥生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

■環境汚染への対応 ■生物多様性の保全 ■持続可能な森林・海洋・陸上資源

⑧SDGs実施推進の体制と手段

■マルチステークホルダーパートナーシップ ■国際協力におけるSDGsの主流化 ■途上国のSDGs実施体制支援

● 環境を軸とした3側面構造

- ・ 環境・経済・社会（木の枝）
- ・ ガバナンス（木を支える幹）
- ・ 木の根に近い「環境」は
社会経済活動を支える根幹
- ・ 水や養分を吸収し枝に供給する
ガバナンス（木が育つには幹が重要）

（クリスマスツリー型 SDGs）



我々の世界を変革する： 持続可能な開発のための2030アジェンダの構造

【前文】「人間、地球及び繁栄のための行動計画」という書き出し

【宣言】世界が直面する危機や機会、アジェンダの特徴を説明

【持続可能な開発目標（SDGsとターゲット）】

17のゴールと169のターゲット一覧

【実施手段とグローバル・パートナーシップ】

【フォローアップとレビュー】

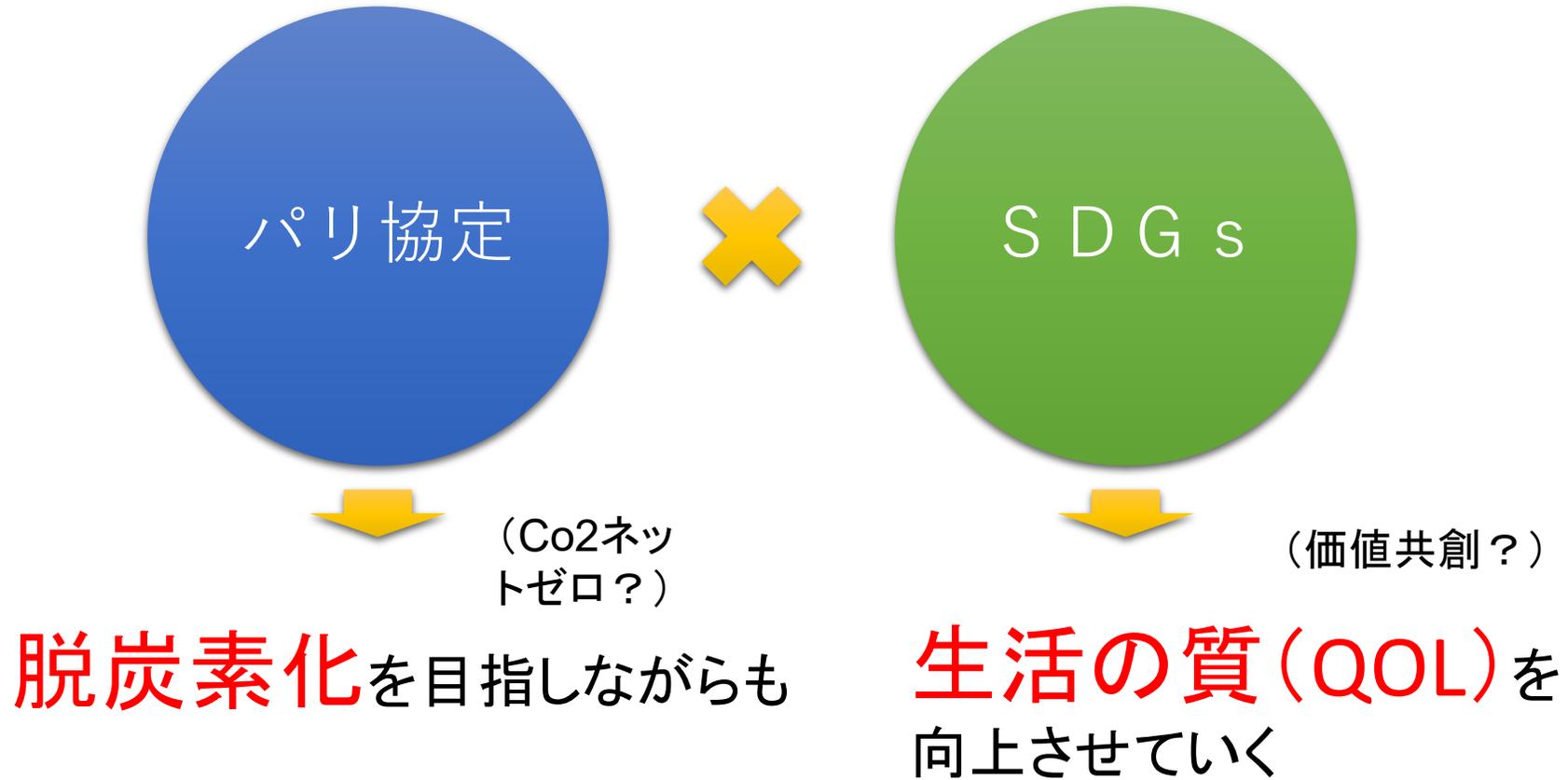
⇒SDGsは「大胆な変革」が必要と訴えている

アジェンダの冒頭に“transforming our world”(我々の世界を変革する)
更に序文に“Bold and transformative steps”(大胆かつ変革的な手段)
既存の延長線上には未来はない、大胆に変えていかねばならない、という
宣言である

もう一つ・・・No one will be left behind. (だれ一人取り残さない)

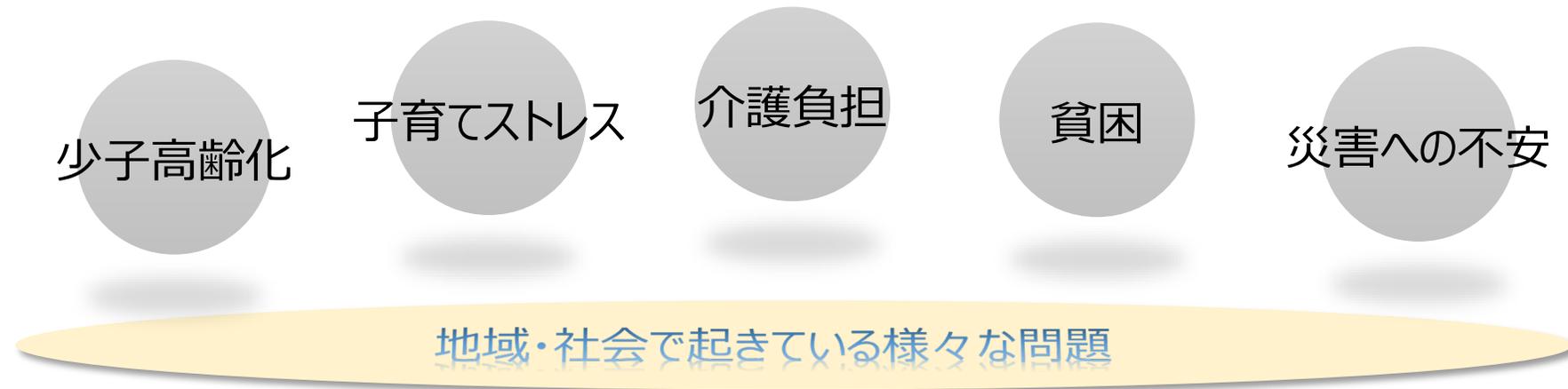
幼虫⇒さなぎ⇒成虫、のような大変化(変態)を。今はさなぎか?!!

これまでの延長線上にない感覚と実践が必要(20世紀型⇒21世紀型、、、20世紀の成功は21世紀の成功にはプラスか??)



これからの時代は、パリ協定とSDGsを両立させていくという難しい舵取りが要求される時代になる！

世界的に様々な問題が生起中

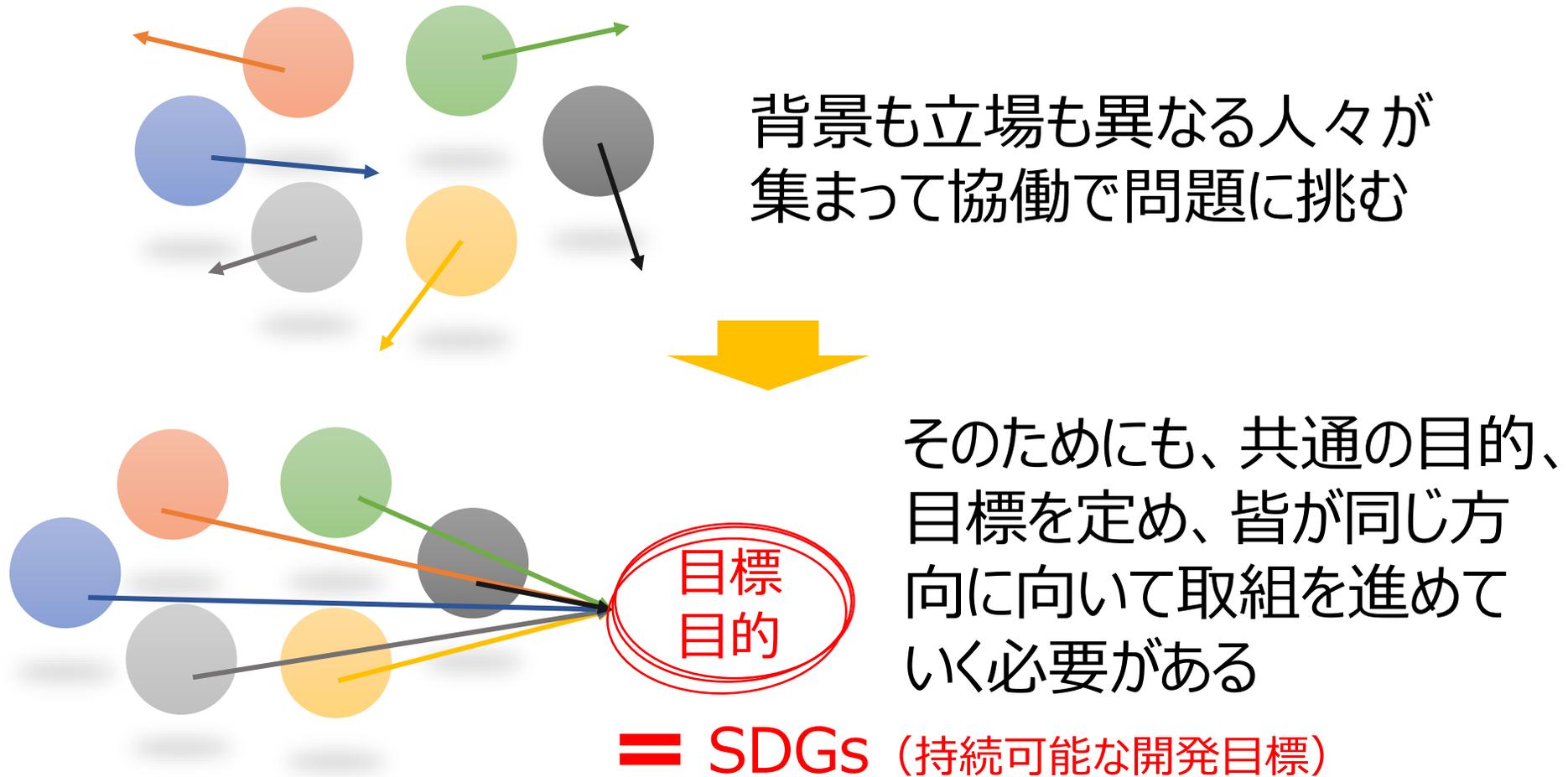


こうした問題は、複数の要因が絡み合っているため、何が原因で生じているのか、一つに定めることができない

だから

多くの人々が参加し、多くの人々の力を活かして
問題に挑むことが重要

共通の目標をもって特徴を生かしつつ・・・



多様なステークホルダーがゴールを共有しながら、それぞれができることを行っていくことで、持続可能な社会を実現していく

これまでの SDGs未来都市への“準備”

・・・学び経験し実施してきたことを基につなぎ合わせていくストーリー・・・

▷環境モデル都市

⇒己を知ること、21世紀型環境施策(21世紀型新規事業の創生)へのアプローチ、
庁内横連携、自治体連携etc.

▷次世代エネルギー・社会システム事業

⇒企業との連携、市民との連携、異質の主体とのプロジェクト推進経験etc.

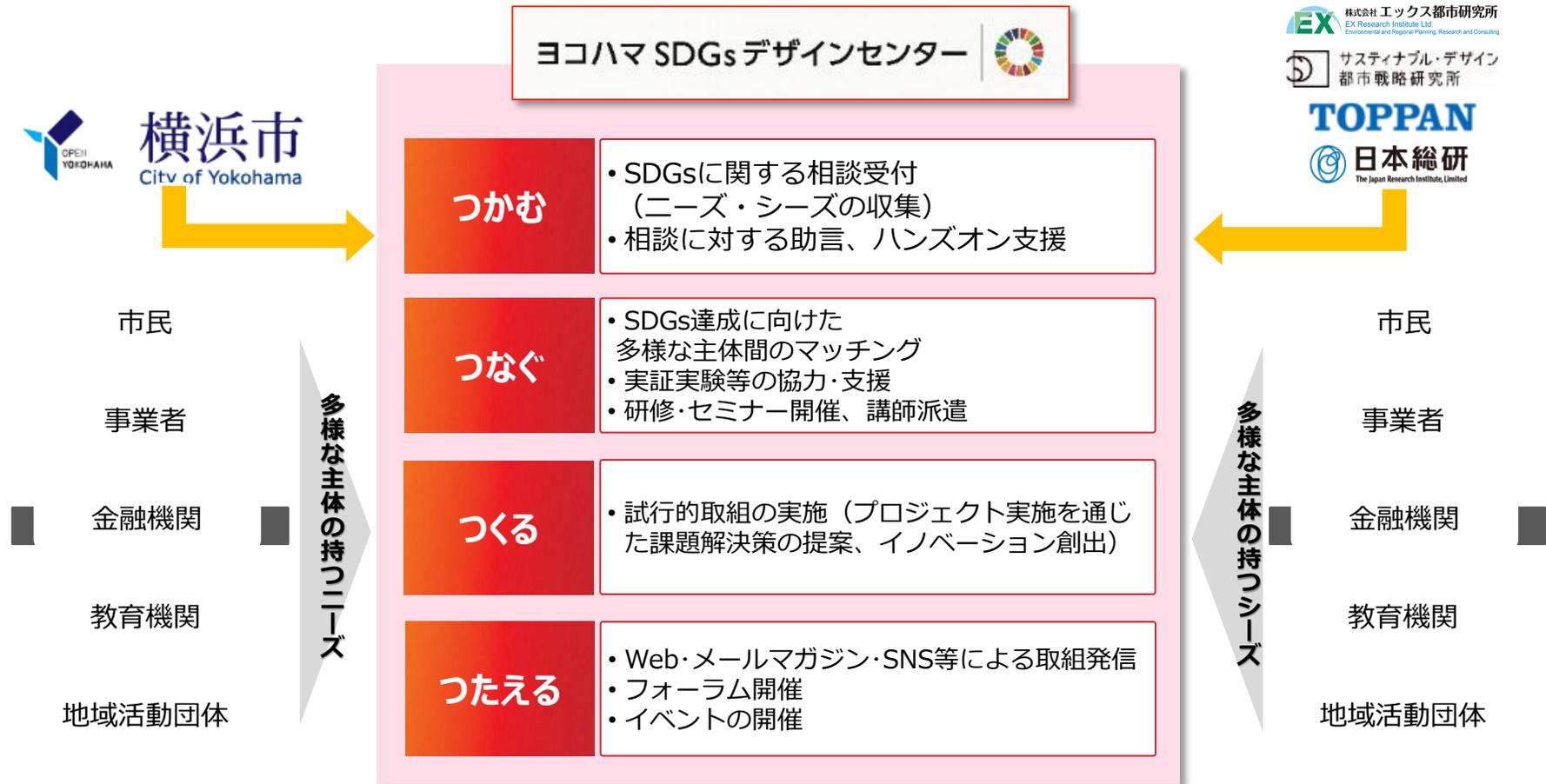
▷環境未来都市

⇒環境・経済・社会（トリプルボトム）の追求、自然インフラの認識、人工的インフラ
（エネルギー、上下水道、廃棄物処理、医療福祉等）の課題認識と課題解決、都市マネ
ジメントetc.

⇒横浜市は、これまでの上記の“**準備運動**”の上でSDGs未来都市となった

17の目標値をベースに横浜市なりの**ストーリー**を作っていける状況にある

SDGs未来都市・横浜の実現を目指し、自らもステークホルダーとして、連携によって課題解決に取り組む、目的志向・実践型の中間支援組織



デザインセンターの支援内容（会員数1000超（一月末現在））

コーディネーターを介した
SDGsに関する相談

SDGs達成に向けたニーズと
シーズのマッチング支援

デザインセンター主催の
各種イベントへの優先参加

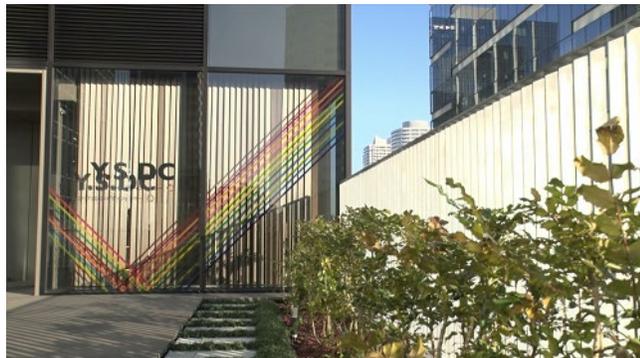
SDGsに関する
個別講座・勉強会の開催

デザインセンターが実施する
試行的取組への参画

プロモーション支援
(共催・後援、HPへの情報掲載)

「交流・情報発信の場」としての役割

- ・ 相談窓口・コンサルティング
- ・ イベント開催等による情報発信
- ・ SDGsに関する学習活動の支援
- ・ SDGsの取組展示



新高島駅そば
「横濱ゲートタワー」3階に
新拠点開設（2021年12月）

ミーティングルーム/ 配信スタジオ

センターの奥にはガラスで仕切られた会議室が備えられています。会員の方との打ち合わせや会議の他、オンラインセミナー等の配信もこちらから行っています。



メッセージボード/ フォトスポット

17ゴールを散りばめたメッセージボードを設置しており、SDGsについての思いやビジョンを自由に書き込んで頂けます。また、フォトスポットとしても活用されています。



リユース家具の活用

新拠点の一部の家具については、IKEA港北「Circular Hub」にて再販されている家具からデザインセンターに寄贈をいただきました。
(横浜市とイケア・ジャパン(株)は持続可能な社会に向け連携協定を結んでいます。)

様々な主体と連携した 各取組の紹介

パイロットプロジェクトをはじめとする、デザインセンターが様々な主体と連携して実施している取組について、文章や写真、映像、現物等を展示して紹介しています。



- デザインセンターでは様々な方からご相談を受けているが、中でも企業からのご相談が多い
- 企業は、大中小問わない。また、市内企業が多いが、市外の大企業などの相談も多い

項目	相談内容	対応内容
経営レベル	<ul style="list-style-type: none"> • SDGsに取り組んでいることをPRするにはどうすべきか？ • 中期経営計画にSDGsをどう盛り込むべきか？ • 何からSDGsを始めたらいいか？ 	<ul style="list-style-type: none"> • 経営コンサルの実施 (大きな方向性などを助言) • 必要に応じて、経営計画策定支援の実施 • Y-SDGs 認証取得促進
事業レベル	<ul style="list-style-type: none"> • SDGsに資するような自社技術やサービスをどのように社会実装につなげていけばよいのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> • 企業間マッチング、企業と地域のマッチングなどを実施
機能レベル	<ul style="list-style-type: none"> • 従業員にSDGsを浸透させるにはどうしたらよいのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> • 研修の実施

- バイオ燃料地産地消プロジェクト
- 金融機関と連携したイノベーションマッチングプロジェクト
- ヨコハマSDGsアイデア博 など



経済

社会

「SDGs未来都市・横浜」へ

環境

- オンデマンドバス実証実験
- ショートタイムテレワーク実証実験
- 環境絵日記こどもサミット
- 中高生向け教育研修プログラム開発プロジェクト
- 事業者向けSDGs研修プログラム など

- ヨコハマ・ウッドストロープロジェクト
- プライムカーボンによる脱炭素・資源循環事業
- Renewable Diesel普及促進プロジェクト など



- 目的**
- SDGsに取り組む市内事業者における、本制度の活用による持続可能な経営への転換及び新たな顧客獲得や取引先の拡大
 - 投資家や金融機関における、ESG投資等の投融資判断の際の非財務情報としての活用

概要 ESG及びLocalの4つの視点から、**30のチェック項目**について、申請者による自己チェック内容を踏まえヒアリング及び外部評価

Environment
環境

8項目
気候変動への取組
(再生可能エネルギーの利用など)
水の効率的な利用・管理
天然資源・生物多様性への配慮
など

Social
社会

12項目
多様な人材の活躍
(ハラスメント防止のための取組など)
女性の活躍促進
製品・サービスを通じた社会課題の解決
など

Governance
企業統治

5項目
情報セキュリティ対策 (個人情報の適切な管理など)
企業の社会的責任 (非営利団体へ寄附、被災地復興支援活動など)
企業統治体制の構築 など

Local
地域(横浜市)

5項目
地域社会とのコミュニケーション機会
横浜地域における文化・芸術活動の促進
地域経済に資する製品・サービスの提供
など



- 各事業者の取組内容と進捗に応じて
3段階（最上位：supreme、上位：superior、標準：standard）で認証
- 認証期間は、認証を受けた日から**2年間**
- 認証取得にかかる手数料は無料
- 年に4回申請を受付（約3ヶ月に一回のペース）

認証区分	認証マーク	解説
【最上位】 Supreme (スプリーム)		SDGs への貢献を高く掲げ、模範として更なる高みを目指していただくとともに、全評価項目の概ね8割以上の項目で高いレベルで取組を進める事業者
【上位】 Superior (スーペリア)		SDGs の達成に向け高く貢献し、更なる高みを目指していただくとともに、全評価項目の概ね6割以上の項目で高いレベルで取組を進める事業者
【標準】 Standard (スタンダード)		SDGsを意識した経営を進めるなど、より高みを目指していただくとともに、全評価項目の概ね3割以上の項目で高いレベルで取組を進める事業者

- ① 認証マークを名刺や企業等のホームページ等に表示可
- ② 認証事業者名や取組内容について、横浜市やデザインセンターのホームページ等でPR可
- ③ デザインセンターが開催する各種マッチングイベントやセミナー等への優先参加可
- ④ 「横浜市総合評価落札方式」の評価項目として加点対象
- ⑤ 中小企業融資制度において信用保証料助成のある「よこはまプラス資金」の対象
- ⑥ 三井住友海上・MS&ADインターリスク総研から、評価項目に対応したサポート提供

(※④⑤については最上位・上位のみ)

※令和4年2月現在

市内中小貿易事業者



- 自分たちはSDGsが十分進んでいる会社だと自負していたが、Y-SDGs認証取得後、何が達成できていなかったのか指摘されたおかげで、会社として次に何をしなければならないのか気づいた。

市内造園事業者



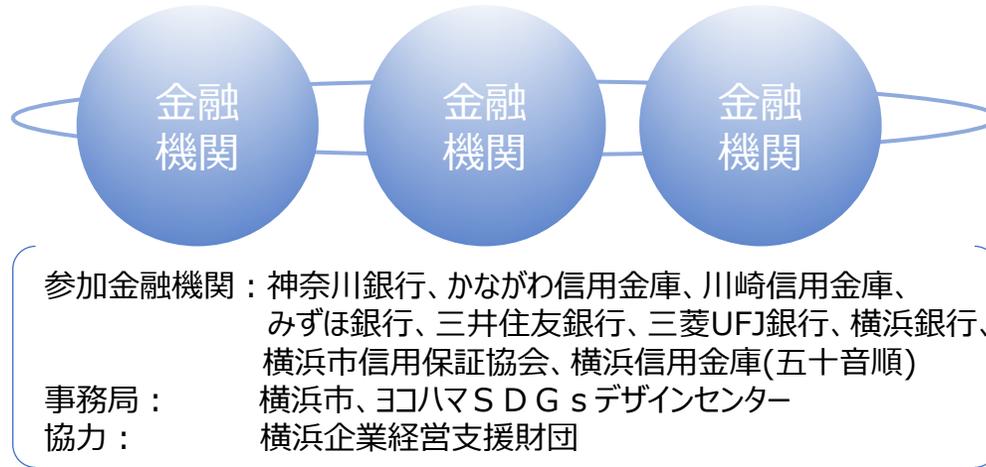
- 自分たちがこれまでやってきたことをしっかり評価してもらい、自信をもって、様々な活動を実施していくことができる。また、SDGsの伝道師として他社を巻き込んで、自社が市内企業を引っ張っていけるよう頑張っていきたい。

市内中小建設事業者



- Y-SDGsの認証の結果、標準クラスであったため、さっそく何をしないといけないのか、デザインセンターのコーディネーターに相談し、再生可能エネルギーへの電力契約の切り替え、女性の管理職比率の目標設定、文化芸術団体への寄付などを行った。

- 市が複数の金融機関に呼びかけ、令和3年7月に設立



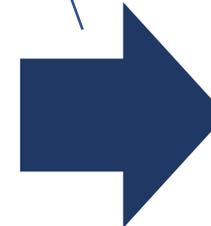
◆ 定例会議の実施

- Y-SDGsの普及・浸透に向けたプロモーションの状況等
- Y-SDGsを活用した金融商品・サービスの検討

◆ 普及・啓発活動／検討商品・サービスの提供

- 別途作成予定の市内事業者向け脱炭素ガイドラインによる顧客への脱炭素化促進などと合わせたY-SDGsのプロモーション
- Y-SDGs認証取得のコンサルティング（デザインセンターと連携したコンサルティングの実施）
- Y-SDGsを活用した金融商品・サービスの提供

- 金融機関の営業担当者がY-SDGs認証取得を推進
- 具体的な取組内容を提示する脱炭素化のガイドラインによる脱炭素化に向けた実践行動（更なる省エネ、太陽光・蓄電池導入、再エネ電気切替など）の促進



市内事業者



自律的好循環・
Zero Carbon
の実現へ

一つ一つは素晴らしい項目だけどつながりのない

「カタログ」

ではなく

それぞれが主張しながらもつながりのあるストーリーとなってい

る「小説」を

プロジェクトや人を紡ぎ合わせてまちを紡いで
いくことが求められているのがSDGs

産官学・市民の異質の融合もそのひとつ・・・